

2020 年 10 月 20 日

アゼルバイジャン国家石油基金(SOFAZ)

アゼルバイジャン国家石油基金(SOFAZ)は、同国の石油ガス収入をもとに造成された基金です。同国の GDP と同規模の資産総額で、国家財政を支える役割も担っています。

同基金のママドフ総裁から、事業内容や日本との関係等について聴取しました。

1. SOFAZ とは

「同基金は、国の石油収入の管理及び運用を目的として、大統領令に従い 1999 年に設立されました。資産総額は現在約 430 億ドルで、これはアゼルバイジャンの GDP と同程度です(注:2019 年の名目 GDP は約 480 億ドル)。同基金の収入は石油ガス販売(輸出)や資産運用等から得た収益から成っています。支出に関しては、毎年その大部分が国家予算へ上納されるほか、国の社会経済発展を目的とした活動に拠出されます。」

「2019 年度には国家予算歳入の約半分が基金からの上納金でした。今年度当初予算では 58 億ドルを上納する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大による財政負担増を賄うため5億ドルを追加して上納するなど、基金は国家財政リスクに対する緩衝材としての役割も果たしています。」

2. 日本市場への投資と、日本企業の対アゼルバイジャン投資促進について

「基金は、地域別・分野別の投資戦略に基づき、世界市場全体を対象に投資を行っています。近年は日本を含むアジア・太平洋地域をより一層重視しています。」

「日本市場では不動産や株式への投資がなされており、対日投資額は約 20 億ドルで、基金の投資ポートフォリオの約 4.6%を占めています。不動産投資の例としては、銀座にある『キラリトギンザ』が挙げられます。日本市場は非常に魅力的で、今後とも日本への投資機会を模索し、意欲的に対日投資に取り組むたいと考えています。」

「また、基金はアゼルバイジャンへの外国直接投資を促進する役割も期待されています。例えば、同国への投資を考える日本企業があれば、日本の親会社に投資(出資)することで、日本企業の事業リスクと投資負担を軽減する手法も実践したいと思います。」

(URL) <https://www.oilfund.az/en/fund/management/information>

(以上)